NO MACHI 城守人の心得

条

提案趣旨

江戸時代の芹橋地区は、城を最前線で守る 「足軽」の居住区であった。現代の生活に合 わないため、足軽組屋敷は減り高齢化も進ん でいる。しかし江戸時代からの町割や 30 軒 の屋敷は往時のまま残されている。

このヒューマンスケールの歴史ある町並みに 魅力を感じる人々が集まり、これからの城下町 を守る「現代版足軽」として、芹橋に愛着を持っ て通い、住み続けることで、芹橋を持続的に 保全・再生していく。



景観計画

城守人のさまざまなアクティビティー遊んでよし、通ってよし、住んでよし。一



芹橋に通い始める。

■城下町の散策ネットワーク形成

芹川沿いのカフェで風情を楽しむ。

计番所を観光ネットワークの拠点として、 誘

れる人々が集まる場所にする。歴史的建造

物や空地を観光・交流施設として活用し、

芹橋の魅力を多くの人に知ってもらう。

交流人口の増加

中川ケヤキ道保存活動補助事業(H22~H29)

等利組足軽層較计振所活用事業(H23)

中橋二丁目修景舗装事業(H27·H28

白板車Tコステーション設置車業(H25~H28

道標·案内板設置事業(H27·H28)

まちづくり計画等定事業(H26)

地域活動補助事業(H22~H27

6利組足軽屋敷辻番所保存修理事業(H21~H22)

助れる人を迎えてくれる计番所

景観地区の指定により、町並みのきめ細かいルールづくりを行い、地区

全体の歴史的な景観形成へと誘導を図る。また、歴史まちづくり法に基

づく「歴史的風致維持向上計画」による事業に加えて、一般住宅や駐車

場等の修景への助成制度を設ける。さらに市民ファンドの創設により、足軽組屋

■景観法と歴史まちづくり法を活用した景観形成

敷の修繕や一般住宅の改修を行い、質の高い歴史的町並み保全を行う。

文化財保護

· IR森林德尼松組展察

・どんつき・くいちがい

防災広場の指定・空地の公有化

利組ファンド(古民家・空家再生)」

華利組足軽マイスター

改修・修繕

診断・計画 資産価値向上

遊路 幅員:1 間半 (2.7m) 美行:

開報走ちづくり活動支援

剪利納足軽俱楽剂

\$6米和韓國數碼

 太田家住宅 歴史的建造物の保全 一般住宅、駐車場等の 一間半の通り

芹橋の情報

や文化を

発信する。

町歩きツアーに参加する。 大工養成塾で古民家の再生技術を学ぶ日々。

辻番所から芹橋の情報や文化を発信する。 大阪・京都に住み、昇橋にセカンドハウスを持つ

足軽屋敷に体験宿泊をして、芹橋をじっくり楽しむ。

芹橋地区や彦根の歴史文化をじっくりと

体験できる多彩なプログラムを用意して、

長期・短期の滞在型の観光客やリピーター

滞在人口の増加

定期的な庭や建物の公開で

芹橋の歴史文化体験をできる。



定住人口の増加

高齢者施設・託児所・学生ドミトリーなど様々な世代が

心して暮らせる多様な住宅や生活支援施設を用意する。

た、古民家を再生した魅力的な居住空間を作り、豊か

感性を持つ新たな住民層のマーケットの拡大を図る

プレていくことで自主的な地域参加を促し、地 域文化の発信・普及・伝承を行う。

をつくる。



地域に関わる活動を通じ、 段階的に経験を

積むことで地域へのまちづくりの担い手とな る人財育成「善利組足軽マイスター制度

地域の歴史学習やまちなみ零内、修繕作業等

の体験実習を行い、楽しみながらステップアッ



学生学芸員による「インターンシップ制度」

地域の人財育成「善利組足軽マイスター制度」

学生が積極的にまちづく りへ関与するきっかけとし て、周辺大学の学芸員課 程の実践型教育の場とし て芹橋地区を活用する。 芹橋地区に関わる歴史・ 文化の調査活動、展示、 解説を行う。学生が調査 を通して地域とふれあい。 新たな発見をまとめること で地域に還元し、さらに 地域の人がそれを共有す る、循環的な関係をつく ることで人財育成を図る。

を持続的に維持できるようにする。



芹橋二丁目は地区別の高齢者の人口総数が最も多く、若者世代を中心

にまち離れが進んでいる。生活の場と働く場が両立する生活支援施設

の導入により、様々な世代が暮らせる多世代型のまちづくりを進める。

また、生活の質を高めるコミュニティビジネスの展開により、地域住民の暮らし

■コミュニティビジネスによる生活の場と働く場の両立

松が美しいまえにわ、うらにわを良好な地域内緑地として保全してい く。建物の修景・修繕に合わせてにわも再生し、空地はポケットパー ク、菜園として活用していくことで居住環境の向上を図る。 さらに、 地 区内から堤防道路へのアプローチ空間を連続性ある緑地として整備していくこと で風致地区とつながる緑の軸を形成する。

■芹川沿いの水と緑のネットワーク形成



■黒字: 既往・予定の計画・事業 ■赤字: 提案する施策 ■等価交換により芹川沿いにオープンスペースを確保 ■市民ファンドによる「古民家・空家再生」



みどり 屋敷の「にわ」を

にぎわい 翻光ルート沿いに 集客・交流施設を誘致

にぎわい titi望() 移、なり 情報を発信する

○情報の集積点

人の集束点

まちの駅のネットワーク図

情報ネットワークを高度化していく

まちなみ 歴史的なまちなみを

一、いのちを守るべ にぎわいを守るべし

古民変面生における人財育成

芹橋の居心地の

よさを感じて

住み始める。

江戸期から継承された町割を有する彦根のまちは、武家屋敷、町人地 消防隊員が到着するまでの地域住民の初期消火を迅速に行うために、 寺町などの特徴ある町並みを形成している。この特徴を地区の個性とし て活かすことにより、彦根全体が個性豊かで活気のあるまちに生まれ 変わることを目指す。また、地区ごとの拠点となる「まちの駅」を整備してネット 役立つ人と人との絆を育む。 ワーク化を図り、回遊性の高い「歩いて観るまちなみ博物館」の実現を目指す。

防災だけでなく地域コミュニティ

の交流を担う防災ひろば。地域の

消火栓の近くの空地を防災拠点とする。防災拠点に自治会の集会所 ポケットパークを設けることで、地域の交流の場となり、防災や防犯に

■まちなみ保存と地域防災の両立



3項道路の指定や連担建築物設計制度を活用したまちなみ保存を進めていくために、地 域の防火機能を強化する。

防災機能の強化

- () 防災(7) ろばの整備 緊急車両の回転確保・消火活動用空地 防災備蓄庫の整備
 - 涌り抜け防災涌路の指定
 - 消火栓の増設・消火栓を新たに3ヶ所設置し、 地区全域の選火活動を可能にする。
- 外周交差点に関切りを確保 緊急車両の進入を容易にする。
- ダウンゾーニング ・容積率100%として、建て詰まりを

251 手に幅のある

みどり 街中に緑のオープンスペースを

歴史的町割の保全 一間半の道路幅員の保全

- 地区内の格子状の道路は、3項道路指 定により幅員2.7mを維持する。 2項道路で後退した部分については、 2.7mに復元する。
- どんつきの保全 どんつき道路は入り口部分に隣切り確 保した上で、連担建築物設計制度を活 用して接道を確保する。
- 〇 街角の保全 地区内の東面ルートを直進化したり 防災パスげを転回広場として利田でき の次びつはを転回払端こして利用できる交差点は、関切りを不要として、i 番所や塀などの街角景観を保全する。

子育で支援施設の存実 P世代のセカンドライフの場の提供 ■ tibititiの>/— ・地域コミュニティの斜・活発な地域活動

地域の課題

人口の減少・高齢化

・若者世代を中心にまち離れの進行

介護・福祉サービスの充実

江戸期の建物が消失、空家・空地の増加



コミュニティビジネスの効果

・地域のニーズとシーズをマッチングさせた生活サービスの提供による利便性の向し ・地域内における新たな雇用の創出

地域住民が主体となり、地域内生活における利便性向上と、歴史的建造物や空地の一体

密着型のビジネスを運営していくことで、地域の暮らしを持続させる。

的な活用を図るため、コミュニティビジネスの手法を用いて地域の課題の解決する。生活

地域内の様々な活動に密接した自分らしい生き方の追求の場を提供

くらし

コミュニティンジャスにより 多世代のくらしを支える

しくみの創出

まちなみ 芹橋二丁目地区の 顔となるひろば整備













彦根の町並みを未来永劫残していくため、歴史的建造物を活用し、特色ある地区単位で

アーカイブをつくり情報の集積を図る。歴史散策の標榜となることで、「まちの駅」とし

ての機能を果たし、情報の収集と共有は地域内・外の交流を促すきっかけとなり、人と



いのち

防災訓練実施による

暮らしに密着した

防災棄機の向上





みどり 251 芦川沿いのケヤキ並木と 帯となった緑の軸の形成

数珠まわしなどの地域の 文化を継承

出資者

古民家・空家

売却

计番所

☆ 乗ちの服

空家の活用

空家の立地特性や建物特性に合わせて、「集う人」、「通う人」、「住まう人」、 のそれぞれをターゲットとした多様な建物利用を図る。

① 空家の類型化

5項目の特性により空家の分類を行った。(⇒○:該当、△一部該当、×:非該当) 立地特性:「観光ルート沿い」、「芹川周辺」、「空地が隣接」

建物特性:「歴史的建造物(戦前)」、「長屋」

② 導入用途の選定

立地特性や建物特性に合わせて、パブリック用途からプライベート用途まで、「集 う」、「通う」、「住まう」というアクティビティに合わせた導入用途の選定を行っ た。(⇒いろは…)



- 観光ルート沿いを中心に情報発信や憩いの場など観光客のための 見所を提供する。⇒賑わい創出
- 「通う」…「集う」ゾーンに隣接して宿泊や別荘利用など定期的な来街者の ための受け皿を導入する。⇒滞在利用促進
- 「住まう」… 芹川沿いや西側街区を中心に生活者のための落ち着いた居住環境 を有する定住型住宅として利用する。⇒定住人□回復

まち歩きで巡る「オープンガーデン」 オープンガーデンの開催

住居として使用している足軽組屋敷は、定期的なオープンガーデンの共同開催により、足 軽組屋敷・にわの公開を行う。歴史ある空間を見せることで、屋敷での暮らしを実体験し



まちに息づく あの屋敷 ひっそりと 产橋八^条 まちの将来像

生活利便施設の整備

子どもからお年寄りまで多 安心して快適に暮らせるまちを目 高齢者福祉施設や子育で支援権

[32,611 空間の考え方

ま代の建物を復元 リールの賑わいを創出する。

立ち寄れば善利組が分かる「辻番所」

地域の総合窓口となる拠点の形成

辻番所を芹橋二丁目地区のコアとして捉え、訪れる人が地域の様々な情報を享受できる場とする。 情報スペースは、善利組案内人の派遣拠点やまちなみツアーの集合場所となり、郷土資料スペース では、「学生学芸員」や「善利組足軽マイスター」が地域に関する郷土資料の企画・展示を行う。



七 伝統技術を継承する「大工養成塾」

地域に密着した伝統技術の継承

地域内の空家を大工・左官の養成場所として活用して、足軽組屋敷の改修・修繕を行い、地 域の伝統技術を継承する。また「善利組足軽マイスター」の指導により、地域住民・来街者 を対象とする日曜大工体験講座を開催し、伝統技術を広く体験してもらう。





庭・背割り水路を歩ける「裏路地」

避難経路を兼ねた裏路地空間の形成

足軽組屋敷の「にわ」や「背割り水路」を一部、地域生活者の通り抜け通路として利用す る。南北に長い街区における目的地への近適や、どんつき部分の二方向避難経路が確保 され、まちの利便性、防災性が向上する。



ご ポタジェを楽しむ 「隠れ家レストランどんつき



隠れ家空間の創出 どんつき、空地・空家、文化財建築などの資源が隣接している場所を一体的に活 用し、行き止まりの隠れ家的要素をもつ、たまり空間を創出する。

ポタジェによる地産地消の実現

空地を活用した鑑賞性の高い有機栽培菜園(ボタジェ)は、レストランと一体的な 運営により地産地消を実現する。また、屋根に降った雨水を貯留し、ポタジェでの 散水に利用して水資源の有効活用を行う。

四 コミュニティを育む「防災ひろば」

緊急時の活動拠点

角地にある空地は、自治会組織ごとの防災ひろばとして活用する。毎年防災訓 練を実施し、緊急時には、消火設備を備えた防災拠点として、消火活動と避難 の円滑化を図る。

日常時のオープンスペース

防災ひろばは、日常生活で利用できる地域に開かれた オープンスペースも兼ね、防災意識の向上だけでなく、コ



建物を復元した「御普請方カフェ」



水辺の憩い空間の創出

の長屋を再現して、憩いの空間とする。 観光ルートの結節点

川川と城下の植 動当としての機関 後三条橋 を果だし、観光 ルートの恒延性 ←七曲り仏壇往

を観める。

後三条橋詰にかつてあった「御普請方会所 御普請方カフェ

六 空地を集約した「土手ひろば」

「十手ひろば」の整備

市・県所有地との等価交換や空地の活用により、芹川沿いにオープンスペースを集約し、緑 の軸を形成する。土手ひろばと堤防道路は、なだらかなスロープでつなぎバリアフリー化を

地域文化の継承

住民が憩える地域の庭である土手ひろばは、芹川・水路・祠などの地域資源を結びつける。

